

関東支部会・事務局長会議・ 交流会を山梨で開催

ACTIVE KUMIAI



関東支部会

一般社団法人山梨県鉄構溶接協会(中出英三会長)の上部団体である(株)全国鐵構工業協会の関東支部(並川栄三支部長)が主催する平成24年度第3回関東支部会が、去る10月18日甲府富士屋ホテルにて開催された。関東支部会は、毎年数回東京の鐵構会館で開催されているが、その内1回は関東支部1都9県の持ち回り開催となっており、本年度は37名が参加し山梨県で開催された。

会議は、全国鐵構工業協会・米森昭夫会長を来賓に招いた各都県代表者による支部会と、事務局長等による事務局長会議に分かれ開催された。支部会では、運営委員会と技術委員会の活動等の報告や審議が行われ、事務局長会議では、懸案となっている工場認定や資格制度、公共工事の受注に関するテーマについて意見交換と協議が行われ、その後支部会に合流し、合同会議が実施された。

合同会議後は、山梨県鉄構溶接協会の理事及び青年部と各都県幹部との交流会が開催され、山梨県の青年部が主体となつて研究している「開先角度の違いによる溶接接合部の性能評価」についての発表が行われた他、協会のあり方など活発な議論が展開された。青年部が発表した研究は、溶接接合部について開先角度25度、30度、35度の3種類の加工を行い、その性能や加工の難易度を評価し、将来的に標準仕様書に盛り込むまでを目的とするという山梨県独自の取り組みであり、本年度の日本建築学会でも公表された内容である。

受注単価の低迷や発注量の激減など業界は非常に厳しい状況にあるが、会議・交流会・懇親会それぞれの場で、濃密な情報交換が行われ、非常に有意義な会となった。

翌日は、山梨県の事務局が企画した観光コースに従い、

甲府市中心の甲府市役所新庁舎・山梨県防災新館・甲府法務総合庁舎の建設現場の視察、県立美術館のミレー常設展の拝観、米倉山のメガソーラー施設の見学、最後にワインリーでの見学と食事と盛りだくさんの内容で観光要所を巡つて頂くまたとない機会となった。



懇親会で挨拶する中出会長